

平成22年度4月 障がい等地域支援ブロック会議報告

日時	平成22年4月15日(木) 14時～16時	
参加機関	15機関	参加者数 19名
テーマ	本人の意志を重視した支援と、それを支援する関係者の連携	
提出機関	防府総合支援学校	
提出目的	主体性を重視した支援のあり方について 学校から地域へのつなぎとつないだサポートネットワークを維持する為に必要なポイントについて協議したい	
概要	総合支援学校からの地域移行ケース4事例から共通して見えてきたこと 1 学校と地域を引き継ぐ機会や場の設定・在学中からの良い顔つなぎ 2 進路相談会を高等部1年生(早期)から実施 3 個別支援計画を策定し、関係機関及び家族の役割分担を具体的に行いチーム支援を実施 4 本人が具体的な経験積み重ねることで自分の意志を表出できるスキルと環境づくり	
検討内容・意見	1 学校と地域につなぎ、個別の教育支援計画・個別移行支援計画の活用について ・個別の教育支援計画は学校によって事業所への提供時期がちがう。防府総合支援学校では高等部1年生から関係機関も入って相談会開始されており、本人への早期の意識付けと地域のスタッフとも関係性ができる。宇部総合支援学校では高等部3年生で相談会開始。支援計画も卒業間近に渡される。 ・個人情報といった視点から個別の教育支援計画の提供してもらえないこともあるが、何の為の支援計画かを見失わないようにしてほしい。 ・個別の教育支援計画も使うことを前提に作成するといったスタンスに変わってきている。 2 学校から地域のみでなく地域の中での支援者・関係機関とのつなぎ、個別支援計画の活用・連携について ・相談支援事業所として個別支援計画を事業所には渡すようにしているが、事業所の計画はもらえないこともある。 ・支援者が共通認識をして支援に当たる必要があり、個別支援会議の開催で支援がずれないようにする必要がある。 ・就労継続支援B型事業所は目標は工賃アップと明確。それ以外に何が必要なのか。 ・就労継続支援B型事業所でも、本人の生活を把握する必要あり。そこから支援・連携が必要となる。 ・各支援機関の役割の認識と連携が必要でそれを維持していくことが課題。	
地域課題の提案	なし	